

令和3年度事業報告

はじめに

法人の各事業においては、コロナ禍の様々な影響を受ける中で、感染症予防対策を取りつつ粛々と業務遂行してきました。

しかし、令和4年1月、特別養護老人ホームにおいて新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生しました。保健所等の指導を受けながら感染症対策に職員一同全力で取り組み、最後の感染から10日間経過した同年3月6日をもって集団感染の「収束」としました。段階を経まして通常運営に戻して参ります。

このような中にありましても、利用者の皆様には心穏やかにそして生き生きとした生活を送っていただくよう、職員一同取り組んで参ります。

1. 特別養護老人ホームさざんか園

いざというときに「備えあれば憂いなし」という諺を使いますが、さざんか園においては「備えあっても憂いあり」の一年でした。

一昨年からの、コロナ禍の影響が、当園にも押し寄せました。感染症対策を講じ、マスク着用・手指消毒・検温を徹底し、フロア間の交流、全体会議や各種研修の制限を行ってきました。しかし、令和4年1月に発生しました集団感染により、感染者の累計は145名となりました。連日の過酷な感染対応に追われ、同年3月6日に収束したものの、利用者及びご家族様並びに関係者の方々に多大なご心配とご迷惑をおかけしました。

コロナ禍において苦肉の策として行なっていましたリモート面会も中止せざるを得なくなり、利用者にはご家族と会えないことの不安と不満が生じてしまいました。

園の行事については、前年度からのコロナ対策継続により納涼祭・敬老会は中止としましたが、各フロアにおける誕生会及び調理レクリエーションとして、かき氷・ケーキ作りを行うことができました。その中でも、秋の収穫祭に代わる行事の『味覚ピュッフェ』は天ぷらやケーキなどのバイキング仕様で、利用者の皆さんの普段以上の食欲と沢山の笑顔・きらきらした瞳が印象的でした。

令和4年度に向けては、一層のコロナ対策に注意を払いながら、皆様に満足できる生活を送っていただけるよう努めて参ります。

2. さざんか園ショートステイ

令和4年1月に新型コロナウイルス感染が確認されてからショートステイ利用者(SS退所者含む)延べ17名に感染が確認され感染拡大となってしまいました。ご家族様や関

係者の方々に多大なるご心配とご迷惑をおかけしました。今後もマスク着用と手指消毒、利用者のご家族様の健康チェックを徹底していきたいと思っております。

実績では年間の稼働率79%を超え、新規利用者は51名となりました。また、ご家族様とケアマネと連携し、より良いサービスと信頼関係を深めることが出来たと思っております。

今年度も昨年度同様に利用者及びご家族様の健康チェックを継続のうえ感染予防を徹底し、多くの方に利用していただき、ご家族の介護負担の軽減につながるよう努めてまいります。

3. デイサービスセンターさざんか園

今年度の新規利用者は、ここ数年で一番多い人数を受ける入れることができましたが、昨年と同じく、長期入院及び施設入所等で契約終了となる方が多かったこと、令和4年1月下旬からの市中感染者増加と併設事業所による新型コロナウイルス感染症拡大で2月5日～3月12日まで保健所指示にて営業ができなくなってしまったこともあり、思うように実績が伸びない一年でありました。関係者の皆様にご迷惑をかけてしまった一年でもありました。

その中でも利用者のためにできること、楽しみを作れるようにレクリエーションに力を注ぎ、フロアで楽しめる企画を実施し取り組みました。ブログの更新はもとより、今年度はカレンダーを作成し、利用者及び関係機関等に配布をさせていただきました。

デイサービス休業中は、利用者及びご家族、居宅介護支援事業所と連携を取りながら、自宅への訪問、家庭状況に合わせて訪問サービスへの切り替えをし、入浴サービス、機能訓練等を行い、デイサービスの必要性や重要性を再度確認できた期間でもありました。

令和4年度は、コロナ禍で制限がある中でもできる限り利用者の要望に応え、面白いデイサービスを目指し、併設事業所と連携しながら運営してまいります。

4. 在宅介護支援センターさざんか園

令和3年度は、昨年同様に新型コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策に細心の注意を払いながらの対応だったため利用者やご家族との関りが制限され、実績に結びつかない支援も多い1年でした。また、1月～3月にかけて併設事業所での大規模集団感染発生により、新規相談を受けても対応がとれないといったケースもあり、利用者やご家族、関係機関の皆様には多大なる迷惑を掛けてしまいました。その中で年間を通して新規利用者は31件、給付管理数については合計922件となりました。新型コロナウイルスの以外の背景としては、認知症高齢者や医療ニーズが高い利用者が増え、入院及び施設に入所される方が多い年となりました。

新型コロナウイルスの終息が見えない中ではありますが、今後も特定事業所加算対象事業所として、地域の方々や民生委員、地域包括支援センター、医療機関、各サービス事業所とも協力をしながら、利用者が住み慣れた自宅で生活ができるように支援していきます。

5. さざんか園福祉教育センター

今年度は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らしや生活スタイルが一変し、今もなお感染拡大の終息が見えない状況にあります。生活や仕事にも大きなダメージを与えることとなり、これまで当たり前に行っていたことにも制限がかかり、ウィズコロナ時代の「新たな生活様式」への対応が求められています。

このため、研修環境では、感染拡大の懸念から園内での研修会場を外部会場へと移し、定員の縮小及び徹底した感染予防対策のうえ、安心して受講いただけるような環境の確保に努めました。喀痰吸引等研修においては、研修の性質上、中止又は延期せざるを得ない状況となりました。

今後は、コロナ禍で集合研修に参加できない施設職員向けに、Zoom等の新しいツールを使ったオンライン研修も取り入れ、グループワークを多用する研修についても、事前プレ研修の実施やブレイクアウトルーム機能等を駆使し、受講者同士ができるだけ共有し深い学びとなるような工夫を心掛けたいと考えています。また、各事業所・施設における福祉人材の確保・養成・定着に関する情報の収集・把握に努め、質の高い介護福祉サービスが提供できる人材養成に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

6. 銚子市西部地域包括支援センター

コロナ禍においても、定期的な包括周知や介護予防等の啓発活動、2層協議体での西部ふれあい会による地域ネットワーク関係者とのつながりを深めることができました。プラチナ体操は休止する団体もありましたが、代表者との連絡を密にし、団体への支援には継続して取り組みました。

また、3職種での包括的継続的ケアマネジメントは、ケアマネとの連携の中でつながりを持ちながら困難ケースも対応を進めてきました。認知症サポーター養成講座は、啓発も含め定期的に西部包括会場で開催し、さらに小学校や職域等で実施することができました。

次年度に向けては、地域包括ケアシステムに重要な2層協議体や地域団体も含め多世代の関係図づくりも近隣情報を得ながら連携の継続をしていきます。さらに介護や認知症予防に関して地域啓発活動を含め、若い世代の方々にも継続的に自分達

の地域のことを意識していただける備え型の地域づくりを発信して参ります。

7. さざんか園小畑デイサービスセンター

令和3年度は、市内でも多くの事業所において職員や利用者の新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生していた中、本体特養では1月に集団感染が発生し、小畑デイでも3月に職員1名が陽性となり2日間の臨時休業措置を実施しました。

稼働実績値としては、月曜日から土曜日間は1日平均28.37名で稼働率88.64%、日曜日は1日平均3.71名で稼働率52.98%であり、前年度と比較し利用延べ人数は690人減、1日平均1.9名減少という結果になりました。大きな要因としては、年末からの新型コロナウイルス感染拡大による影響と臨時休業が挙げられます。特に、臨時休業及び利用控えが生じた3月の利用実績は今年度中で最も低い実績値となってしまいました。

今年度の目標稼働率や実利用者数は未達成となったことから、令和4年度は引き続き各居宅介護支援事業所へ営業活動を行いながら新規利用者の獲得が出来るように努めていきたいと思っております。

8. 小畑在宅介護支援センターさざんか園

今年度は、新規依頼の件数は減少傾向だったものの、新規の方が適切にサービスにつながったことや今年度に入りサービスを利用開始された方が多く見られたため、年間の請求件数は1,514件となり、前年度と比較し142件増加しました。

また、新型コロナウイルスの影響から、外出自粛やサービスを利用せずに過ごしていた等の理由により心身の機能低下が進み、認知症を有される方や医療ニーズが高い方等重介護度の方が多く見受けられました。

今年度は市内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、本来のケアマネジメントが十分に行うことができない時期が多くありましたが、地域の感染状況に合わせ柔軟に居宅訪問を行いつつ、サービス事業所や医療機関等の対応も一人ひとり自分達の立場を考えながら十分に感染防止対策に努めて参りました。

また、感染防止対策により外部研修や会議の機会が少ない中、リモート研修にできる限り参加し、事業所内での定期的な会議、勉強会及び事例検討を通し、個々の知識を高めることで介護支援専門員の質の向上に努めました。

今後も特定事業加算対象事業所として、支援困難ケースの対応や他法人との事例検討を通し、また地域の方々や民生委員、地域包括支援センター、医療機関、各サービス

事業所とも協力しながら利用者が住み慣れた自宅で生活を長く継続していけるように支援していきます。

9. 銚子市東部地域包括支援センター

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、参集しての事例検討会や市民に向けた周知活動などは事業計画に沿ったようには進みませんでした。地域住民や介護支援専門員などから寄せられる個々の相談実件数としては、前年度と同等の件数でした。

しかし延件数としては、前年度比で170%と増加しており、相談内容が複雑化及び深刻化し、支援終了まで長期化するケースが多かったと感じています。

また、虐待が疑われるケースも18件と増加しており、虐待解消には至らず再発を繰り返すケースも増えてきていることから、次年度は包括内の体制整備を行い、柔軟に対応できる体制づくりを行っていく予定です。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止対策による事業の中止や延期、市民への周知活動が出来なくなることも想定し、周知活動及び連携方法の見直しや包括内での研修の充実を図り、職員のスキルアップを図っていきます。